**第２学年国語科学習指導案**

日　時：平成３１年２月２２日(金)５校時

児　童：港区立高輪台小学校　　　第２学年３組　３８名

担　任：港区立高輪台小学校　　　教　　諭　河野　麻衣

指導者：町田市立忠生第三小学校　主任教諭　三原　愛子

**１　単元の目標**

　○　言葉には、人を「うれしい」気持ちにする働きがあることや、同じ言葉でも状況によって受け手の感じ方が変化することに気付く。

**２　単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | **ア 知識・技能** | **ウ 主体的に学習に取り組む態度** |
| **単**  **元**  **の**  **評**  **価**  **規**  **準** | 言葉には人をうれしい気持ちにする働きがあることや、状況の違いによって感じ方が異なることを理解している。 | 言われてうれしい言葉に関心をもち、調査する活動を通して、言葉の働きに気付き、自分の言葉の使い方を見つめようとしている。 |
| **学**  **習**  **活**  **動**  **に**  **即**  **し**  **た**  **具**  **体**  **的**  **な**  **評**  **価**  **規**  **準** | ①言葉には、人を「うれしい」気持ちにする働きがあることを理解している。  ②「うれしい」と感じる言葉は、人によって違いがあることに気付いている。  ③同じ言葉でも言われた状況によって感じ方が異なることに気付いている。 | ①自分が言われて「うれしい言葉」への関心を高め、想起して選ぼうとしている。  ②他者にとっての「うれしい言葉」に関心をもち、インタビューをしようとしている。  ③調査の結果から、疑問をもち、学習の進め方を考えながら学習計画を立てようとしている。  ④これまでの経験の中から、より「うれしい言葉」を選び出し、そのときのことを想起して文章に書こうとしている。  ⑤友達の言葉の感じ方を知り、自分と比較したり、自分の言葉の使い方を振り返ったりしている。 |

**「本単元で培うことができる思考力・判断力・表現力」は、以下の通りである。**

**・資料を読み、内容の大体を捉える力。**

**・インタビューをして、情報を集める力。**

**・比較したり関連付けたりして考える力。**

**・考えたことを話したり、書いたりして表現する力。**

**・言葉の意味や伝わり方を考えて話したり書いたりする力。**

**単元の学習全体を通して、これらの力を培うことができるように学習活動を計画した。**

**３　単元構想**

　(1) 児童について（児童観）

本学級には、いろいろなことに興味をもち、課題に対して一生懸命取り組む児童が多い。友達と一緒に過ごすことへの関心が広がったことで互いの理解も深まり、友達が頑張っていると自然に声をかける姿も見られようになってきた。一方、周りのことが気になって友達に強く注意をしたり、関係がうまくいかなかったりする様子も見られる。「ふわふわ言葉」や「ちくちく言葉」の学習をし、「ふわふわ言葉」を使うと良いことについては理解している。また、帰りの会の「きらきらさん」という活動では、「いっしょにあそぼう」や「だいじょうぶ」などの言葉が紹介され、言われて「うれしい」と感じる言葉（以下、「うれしい言葉」）を耳にしている。しかし、相手の受け取り方を意識せず、やり取りの中でつい「ちくちく言葉」を使ってしまうこともある。

本単元の学習に取り組むにあたり、本学級の児童３８名に、国語科の学習と「うれしい言葉」に関する意識調査を行った。（※割合は、小数第一位で四捨五入した。）

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １ | 国語の学習は好きですか。 | | | | | | | |
| 好き  １８名（４７％） | | まあまあ好き  １２名（３２％） | | あまり好きではない  ３名（　８％） | | 嫌い  ５名（１３％） | |
| ２ | あなたが言われてうれしい言葉は何ですか。 | | | | | | | |
| ・ありがとう　　２３名（６１％）　　　　　・一緒に遊ぼう　　　　６名（１６％）  ・すごいね　　　　６名（１６％）　　　　　・おめでとう　　　　　５名（１３％）  ・上手だね　　　　４名（１１％）　　　　　・いいね　　　　　　　３名（　８％）  ・うれしい　　　　３名（　８％）　　　　　・楽しい　　　　　　　２名（　５％）  ・大好き　　　　　２名（　５％）　　　　　・頑張ってね　　　　　２名（　５％）　　など | | | | | | | |
|  | 理由も書ける人は書きましょう。 | | | | | | | |
|  | ３つ | | ２つ | | １つ | | 無記入 |
| 理由あり | ０名（　０％） | | ４名（１１％） | | １名（　３％） | | ９名（２４％） |
| なし | １７名（４５％） | | ２名（　５％） | | ５名（１３％） | |

「国語の学習は好きですか」と聞いたところ、「好き」「まあまあ好き」と答えた児童が合わせて約８０％おり、この学級では、多くの児童が国語科の学習に高い興味・関心を寄せていることが分かる。合わせて、国語科の学習の中で好きなことは何か聞いたところ、言葉遊びをすることや作文を書くことが好きだと答えた児童がそれぞれ５０％以上いた。

また、３つの枠を設け、「あなたが言われてうれしい言葉は何ですか」と聞いたところ、３つ書けた児童が４５％、２つ書けた児童が１６％、１つ書けた児童も１６％いた。具体的な言葉としては、「ありがとう」が一番多く、次いで、「一緒に遊ぼう」「すごいね」などが挙げられた。一方で、「うれしい言葉」を1つも書けなかった児童が２４％いた。自分が言われてうれしかったことを思い出せなかったり、「うれしい言葉」をかけられても意識を向けられなかったりすることが考えられる。

　(2) 学習材について（学習材観）

私たちは、言葉のやり取りを通して周囲の人と意志疎通を図りながら生活している。言葉で必要事項を伝え合うとともに、人に思いを伝えたり人の思いを受け取ったりしながら関わりを広げ、深めている。その中で、相手から発信された言葉で喜んだり悲しんだり怒ったりすることもある。

言葉を使ってやり取りをする際、話し手と受け手の間に捉え方のずれが生じることがある。その原因は、以下の４つにあると考えた。

　　①話し手が意図したことを誤りなく伝える言葉を用いていない。（正確さ）

　　②受け手が理解できるような言葉を用いていない。（分かりやすさ）

　　③目的、場面や状況に合うように、また、受け手の気持ちに配慮した言い方を話し手が考えていない。

（ふさわしさ）

　④両者の関係を考慮した、互いに心地よい距離をとった言葉を、話し手が用いていない。（敬意と親しさ）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　出典：「分かり合うための言語コミュニケーション」について　文化庁

本単元では、③に着目する。よりよい人間関係を築いていくためには、自分が発した言葉に相手の気持ちを左右する働きがあることを意識し、相手の気持ちも慮って言葉を発することが必要であると考える。

低学年の児童は、日々の生活の中で様々なことに驚き、感動し、楽しんだり喜んだりしている。その際、感じたことを「たのしかった」「うれしかった」という言葉で表現することが多い。「たのしい」「うれしい」という感情や言葉は、２年生の児童にとって大変身近なものである。

以上の理由から、日常生活の中での「うれしい言葉」を学習材とすることにした。「うれしい言葉」を学習材とすることで、言葉の働きに迫ることができるのではないかと考える。

言語部低学年分科会では、以下３点を「うれしい言葉」を通して気付かせたい言葉の働きとして捉えた。

①人によってうれしいと感じる言葉が異なる。

②同じ言葉でも、うれしいと感じた理由（エピソード）が異なる。

③同じ言葉でも、その言葉を言われた状況によって、受け取り方が変わる。

光村図書出版２年上には、「うれしい言葉」という小教材がある。自分が言われてうれしかった言葉を想起し、いつ、だれに、どんなことを言われたかを書く活動が例示されており、書く際の資料として活用できる。

　　新学習指導要領との関連

「知識及び技能」（１）言葉の特徴や使い方に関する事項

ア　言葉には，事物の内容を表す働きや，経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

オ　身近なことを表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には意味による語句のまとまりが

あることに気付き，語彙を豊かにすること。

　(3) **単元について**（単元観）

児童が、言葉に相手の気持ちを左右する働きがあることや受け手次第で感じ方が変わるということに気付き、自分自身の言葉の使い方を意識することができるような学習をしたいと考え、本単元を設定した。

自分の「うれしい言葉」を見つめ直したり、友達や教師、保護者や兄弟姉妹などの身近な大人や年齢の異なる人たちの「うれしい言葉」を調べたりすることで、２年生なりに言葉の働きに迫っていく。調べた結果を持ち寄って報告し合う中で「言葉は人をうれしい気持ちにすることがあるんだ」「うれしい言葉は、人によって違うんだ」ということに気付かせたい。途中、資料を提示し「言われたときに何をしていたかによってうれしい気持ちが変わってくる」ということにも気付かせる。自分の「うれしい言葉」のエピソードを書くことは、自分自身の感じ方や、言葉の使い方をじっくりと見つめ、振り返ることにつながる。さらに、クラスの友達が書いたものを読み合うことで、「この子は、こんな状況で、こんなふうに言われたからうれしかったんだね」と、言葉や友達への理解を深めることができるだろう。そうすることによって、言葉の使い方への意識も高めることができると考えた。

「ありがとう」や「よかったね」等の受け手をうれしい気持ちにする言葉を自然に使うことができるようにしたい。少し立ち止まって言葉の適否や相手の気持ちを考えて言葉を選んだり、相手の意図は何かを考えながら聞いたりすることのできるような言葉の使い手を育てていきたい。

**４　研究主題に迫るために**

本単元における主体的な学び・対話的な学び・深い学びの姿を、以下のように考える。

【主体的な学び】…「うれしい言葉」への興味・関心を高め、自分で考えながら学びを進めていく。

・既習の学び方を活用し、こうしたいという思いをもって学習に取り組んでいる。

　　・「うれしい言葉」に関心をもって、自分から調べたりまとめたりしようとする。

　　・言葉への興味・関心を広げたり、自分自身の言葉の使い方を振り返ったりする。

　【対話的な学び】…人とのやり取りを通して、「うれしい言葉」に関する気付きを深める。

　　・様々な人にインタビューをして、出てきた言葉や話し手への理解を深めている。

　　・分かったことを報告し合い、共通点や相違点を探す中で、言葉の働きや特徴に気付いている。

　【深い学び】…言葉の働きの捉えを新しくする。

　　・友達、身近な大人と２度の調査活動を通して、言葉の働きへの気付きを深めている。

　　・状況に着目して感じ方を交流し、よりよい言葉の使い方について考えようとしている。

これら実現のために、以下のような工夫をする。

(1) 単元づくりの工夫と柔軟な学習過程

【出合う】

導入では、言葉を聞いてイメージしたものを出し合い、想像の違いを楽しむ「何でしょう」ゲームを行う。「赤い果物」という言葉を聞いて頭の中に思い浮かべるものは、人によってりんごやいちご、すいか等様々である。ゲーム化することでその違いを楽しみながら、同じ言葉でも聞き手によって捉え方が異なるということに気付かせることができると考えた。お題は、物から言葉へと徐々に変化していくようにした。

その後、資料を読み、自分の「うれしい言葉」とその理由を書き出すことで、「うれしい言葉」の存在を意識させる。ゲームと資料によって高まった「友達の『うれしい言葉』は、何だろう」という児童の思いを生かし、調査活動に入る。

調査活動では、直接相手に話を聞くインタビューを行う。友達からのインタビューに答えることで、自分の「うれしい言葉」を意識したり、自然とこれまでの経験を振り返ったりすることができると考えた。また、複数の友達にインタビューをすることで、「人によってうれしいと感じる言葉が違う」ことや「同じ言葉でも、人によって理由が異なる」ことに気付くこともできる。全員でインタビューの仕方を考え、実際に体験をすることで、その後の一人での調査活動に役立つと考えた。

１回目の調査結果を共有し、「人によってうれしいと感じる言葉が違うこと」や「同じ言葉でも、人によって理由が異なること」への気付きを確かにする。共有する中で生まれた「他にもあるのだろうか」「大人と子供で違いがあるのではないか」「どんな言葉が一番多いのか」という疑問を基に学習課題を設定する。

そして、学習計画を立てる。児童とやり取りしながら学習計画を立てることで、児童がこうしてみたいという思いをもって学習に取り組んだり、これからの学習を見通して進め方を考えたりすることができる。また、単元名を児童が付けることで、学習に対する意欲をさらに高めることができると考えた。

【親しむ】

親しむ段階では、一人一人が課外に集めてきた「うれしい言葉」を報告し合い、言葉の働きを考えたり、自身の「うれしい言葉」を見つめ直したりする。２回目の調査活動は、身近な大人にインタビューを行うこととした。これは、インタビューのやり取りの中で、「うれしい」に関連する語句や、自分が予期していなかった言葉、それに関するエピソードとの出合いがあると考えたからである。それらの結果を持ち寄り、報告したり結果を比較したりする中で「人によってうれしいと感じる言葉が違う」「同じ言葉でも、人によって理由が異なる」という言葉への気付きをより確かなものにしていく。

その後、状況の違いによる受け取り方の違いを考え、「うれしい言葉」の捉えに揺さぶりをかける。「おめでとう」と言われる場面絵を４枚提示して受け手の気持ちを考えたり、状況の異なる４つの場面で「一緒に遊ぼう」と言われた人になって返事をしたりする。児童の日常生活にある様々な場面を設定し受け手になって答えることで、同じ人に同じ言葉を言われても「とてもうれしい」「うれしいけれど、やや困ってしまう」などの異なった気持ちになると気付かせることができると考えた。これらの活動を通して「同じ言葉でも受け手の状況によって伝わり方が異なる」ことに気付かせていきたい。

人による受け止め方の違い、状況による受け止め方の違い、「うれしい言葉」の多様性などへの気付きを深め、改めて自分の言葉の捉え方を見つめ直すために、自分の「うれしい言葉」とそのエピソードを文章に書く活動を設定した。単元と並行して集めている「ことばしゅざい手ちょう」に書き溜めた「うれしい言葉」やこれまでの経験の中から、「うれしい言葉」を１つ選んで書く。言葉への気付きを重ねてきたことで、「どんな状況で、どんな言葉を言われたから」という視点で自分の「うれしい言葉」を見直すことができると考えた。

その後、児童が書いた文章を互いに読み合う時間を設定した。書いたものを読み合うことで、改めて「うれしい言葉」の働きや「うれしい」に関連する語句を意識する。併せて友達の言葉の捉え方や感じ方を知ることもできる。

【生かす】

終末には単元の学習を振り返り、「うれしい言葉」に関する気付きを出し合って、言葉の働きについて考える。学習したことによる自身の変容を意識することができると考えた。そして、友達や家族に「うれしい言葉メッセージ」を書く。「うれしい言葉メッセージ」には、相手がうれしい気持ちになることを思い浮かべて、好意や感謝の気持ち、頑張りへの賞賛や応援などを書く。

単元の終了後には、言葉の使い方を意識し、言葉への興味・関心をもって生活する姿を期待する。児童は本単元の学習を通し、受け手の立場で言葉の働きへの気付きを重ね、自然と話し手の思いや言葉の使い方にも目を向ける。「今は、この言葉で大丈夫かな」と使い方を考えたり「他にもうれしい言葉はないかな」と言葉を意識したりしながら生活する児童の姿を期待したい。

(2) 児童の学びの向上につながる評価と指導の一体化

【自己評価】

毎時間、記述による振り返りを行う。活動、言葉、今後に向けての３観点で振り返り、児童が自身の変容を意識できるようにする。

【座席表型評価補助簿】

座席表型評価補助簿を活用し、一人一人の学習状況を把握する。前時までの評価を記録し、予想される児童の姿や本時の支援計画を書き込み、指導に生かす。

**５　単元計画**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 時 | 学習活動 | 指導事項 | 評価規準◆　評価方法★ |
| 出合う | １ | 言われてうれしい言葉を意識する。  〇「何でしょう」ゲームをする。  〇資料①を読む。  〇自分の「うれしい言葉」を考える。  〇本時の学習を振り返る。 | ・言葉には人をうれしい気持ちにさせる働きがあると気付くこと。  ・今後の活動でやってみたいことを考えること。 | ◆自分が言われて「うれしい言葉」への関心を高め、想起して選ぼうとしている。主①  ★発言・学習シートへの記述  ◆言葉には、人を「うれしい」気持ちにする働きがあることを理解している。知①  ★学習感想 |
| ２ | クラスの友達や先生方の「うれしい言葉」を調べる。  〇インタビューの仕方を考える。  〇インタビューをする。  〇分かったことを記録する。  〇本時の学習を振り返る。 | ・共通体験を通して活動の見通しをもつこと。  ・複数の人に「うれしい言葉」とその理由を聞くこと。 | ◆他者にとっての「うれしい言葉」に関心をもち、インタビューをしようとしている。  主②  ★インタビューの行動観察・学習感想  ◆「うれしい」と感じる言葉は、人によって違いがあることに気付いている。知②  ★発言・学習感想 |
| ３ | 課題を設定し、学習計画を立てる。  〇調べた「うれしい言葉」を見合い、気付いたことを出し合う。  〇もっと知りたいことを基に、全体の課題を設定する。  〇学習計画を立てる。  〇本時の学習を振り返り、今後の見通しをもつ。 | ・インタビューの結果を比較して考えること。  ・疑問を基に、課題を設定すること。  ・今後の学習の見通しをもつこと。 | ◆「うれしい」と感じる言葉は、人によって違いがあることに気付いている。知②  ★発言・学習感想  ◆調査の結果から、疑問をもち、学習の進め方を考えながら学習計画を立てようとしている。主③  ★行動観察・学習感想 |
| 親しむ | 課外 | 〇家族や知り合いにインタビューして「うれしい言葉」とその理由を調べる。 | | |
| ４  本時 | インタビュー調査の結果を見合い、言葉の働きについて考える。  〇集めた「うれしい言葉」と理由を見合い、気付いたことを出し合う。  〇状況の違いと、受け手の感じ方の違いについて考える。  〇本時の学習を振り返る。 | ・共通点や相違点を考えながら「うれしい言葉」とその理由を見比べること。  ・どんなときに言われた言葉なのか、状況に着目して考えること。 | ◆同じ言葉でも言われた状況によって、感じ方が異なることに気付いている。知③  ★発言・行動観察・学習感想 |
| ５  ６ | 自分の「うれしい言葉」とエピソードを文章化し、読み合う。  〇「ことばしゅざい手ちょう」やこれまでの経験の中から、一番の「うれしい言葉」を選ぶ。  〇その言葉を言われたときのことを、想起する。  〇どんなときに、どんな言葉を言われて、どう感じたかを意識して文章を書く。  〇互いの「うれしい言葉」エピソードを読み合う。  親しむ  ５６  〇本時の学習を振り返る。 | ・自分にとって思い入れのある「うれしい言葉」を選ぶこと。 | ◆これまでの経験の中から、より「うれしい言葉」を選び出し、そのときのことを想起して文章に書こうとしている。  　主④  ★行動観察・学習シート・学習感想 |
| 生かす | ７ | 単元の学習を振り返り、言葉の働きについて考える。  〇単元の学習を振り返り、言葉について考えたことを書く。  〇友達や家族にメッセージカードを書く。 | ・本単元の学習をする前と後の自分の「うれしい言葉」に対する考えを比較し、変容に気付くこと。 | ◆友達の言葉の感じ方を知り自分と比較したり、自分の言葉の使い方を振り返ったりしている。主⑤  ★発言・学習感想 |
|  | 単元後 | 〇言葉の使い方を意識し、興味・関心をもって生活する。  〇この場面にこの言葉でいいかなと、使うときに少し立ち止まって考える。  〇相手のことを考えて言葉を発する。  〇相手の意図は何かを考えながら聞く。 | | |

**６　本時の学習（４／７時間目）**

(1) 本時のねらい

同じ言葉でも、受け手の状況に応じて、「うれしい言葉」の感じ方が異なることに気付く。

　(2) 本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学　習　活　動 | 指　導　事　項 | ◆評価　★評価方法　○指導上の留意点 |
| １　本時のめあてを確かめる。  あつめた「うれしいことば」をほうこくしよう  ２　課外でインタビューした結  果を共有する。  （１）グループ（３人程度）で結果を報告し合う。  （２）全体で気付いたことを出し合う。  ３　状況による受け取り方の違いについて考える。  （１）おめでとう  ４枚の場面絵を見て、言われたときの気持ちを考える。  ①誕生日を祝ってもらった。  ②頑張って練習していたことが、やっとできた。  ③失敗をした。  ④くじ引きで、欲しいものとは違うものが当たった。  （２）一緒に遊ぼう  　　状況の異なる４つの場面における役割演技をしたり見たりしながら、言われたときの気持ちを考える。  ①休み時間、一人ぼっちのときに誘われた。  ②読みたい本を読んでいるとき、いいところで誘われた。  ③放課後、習い事に行く日に誘われた。  ④家族と出かける途中に誘われた。  （３）気付いたことを出し合う。  ４　本時の学習を振り返る。 | ・共通点や相違点を考えながら「うれしい言葉」とその理由を見比べること。  ・受け手の状況によって、「うれしい」気持ちの度合いに違いがあると気付くこと。  ・どんなときに言われた言葉なのか、どんな気持ちなのかに着目して考えること。  ・話し手と受け手の様子から、受け取る印象を考えること。  ・「うれしい言葉」は受け手の状況に応じて感じ方が異なること。  ・本時の学習を振り返り、次時のめあてをもつこと。 | 〇学習計画を振り返り、本時の活動を確認する。  〇「おめでとう」は、「うれしい言葉」であることを確認してから、場面絵をスクリーンに映し出す。  〇受け取り方の違いを感じやすくするため、確実に「うれしい」と感じる場面から提示する。  〇「うれしい言葉」ということを確認する。  〇児童が「一緒に遊ぼう」と言われた人（受け手）になって、答えたり、その時感じた気持ちを発表したりする。  〇受け手を１つの場面に複数名とし、様々な答えや気持ちの受け止め方を出させる。  〇児童の発表が似通ってしまった場合は、教師が用意したセリフや言い方で答えるのを聞いて、言われた人がどんな気持ちなのかを見ている児童が考えることができるようにする。  〇「今日のはっ見」として、言葉への気付きを整理する。  ◆同じ言葉でも言われた状況によって、感じ方が異なることに気付いている。  （★行動観察・学習感想）  **〇評価の規準となる児童の姿**  **→次時以降の指導の視点**  **〇十分に満足できる児童の姿**  同じ言葉でも状況によって違いがあることに気付き、相手の状況を踏まえてふさわしい言葉を選択しようとしている。  **〇概ね満足できる児童の姿**  同じ言葉でも状況によって違いがあることに気付いている。  →自分が話し手になる場面を想起させる。  **○概ね満足できる状況を目指す児童の姿**  活動に関することのみにふれていて言葉への気付きにふれていない。  →個別にやり取りをしながら本時３の活動で気付いたことを想起させる。 |